

2014年8月号

## 今月の主張

不安解消へ医療保険改革が急務  
国民皆保険の発展へ  
—将来展望を見出せる制度に—

内閣府はこのほど、わが国における子ども、若者の状況をまとめた子ども・若者白書を公表しました。

それによると、日本の若者が感じている働くことに関する現在または将来への不安は、「十分な収入が得られるか」が78・0%で最も高くなっていました。そのほか、不安を感じている項目には、「老後の年金はどうか(77・6%)」、「健康・体力面はどうか(64・1%)」といった回答があげられました。老後の生活費をはじめ、病気やケガ、家族や自身の介護が必要になったときなど、毎日の生活に起こりうるリスクへの不安が高まっています。こうした不安を安心に換える役割を担っているのが社会保障制度です。

日本の社会保障制度は、大きく社会保険制度と福祉制度にくくられます。そのうち、社会保険制度は医療、介護、年金、雇用、労災の各保険に分かれており、政府の社会保障と税の一体改革では、医療、介護、年金の3保険に少子化対策も含めた4分野にかかる費用を社会保障4経費とし、消費税率の引き上げに伴う税収を充て、制度の充実と持続性を確保することとしています。

このなかで、とくに医療保険は、すべての国民が加入する国民皆保険制度として、必要なときに必要な医療を受けられる、世界に誇る日本の特色ともなっています。

しかし、この医療保険制度は今、危機的な状況にあります。高齢化や医療の高度化により医療費は毎年1兆円規模で増大し、制度を運営する健保組合などの保険者は財政的に厳しい状況に追い込まれているのです。保険者が存続できなくなれば、国民皆保険制度は崩壊し、多くの方々が医療保険に未加入の“無保険者”になることが想定されます。

健保連の調査では、2012年度1カ月当たりの医療費の最高額は8481万1650円に達し、1000万円以上の医療も254件にのぼっています。

もし仮に、無保険者になれば、こうした高額な医療費の全額を支払わなければなりません。そうなれば、自分の老後や家族の進学・結婚などのために積み立てた資金はおろか、将来設計さえも大きな音を立てて崩れかねません。

また、民間の医療保険に加入していれば安心かという点、決してそうではありません。公的な医療保険に代わり、民間の保険会社が医療を保障することになれば、保険会社が支払う給付金は当然膨らみます。その結果、利潤を追求する保険会社は支払いリスクを緩和するため、保険料水準を高く引き上げることが予想されます。健保組合の保険料は、労使間の協議のもとで利益を度外視して決定しますが、これに比べ民間保険会社の保険料が高くなるのは自明のことなのです。

国民の健康を支えてきた医療保険制度ですが、高齢者医療を支えるための若者＝現役世代の負担が増大し、限界を迎えています。若者の将来不安を取り除くための社会保障制度が、逆に危機感を煽るようなことがあっては本末転倒です。

増え続ける高齢者医療費を適正な水準に抑え、消費税込をもとに公費を投入し、若者が安心して負担できる仕組みに変える。医療保険制度の改革が今こそ必要になっています。

## けんぽ単語帳

健康保険に加入している人の資格は、「被保険者」もしくは「被扶養者」に分かれます。

### ■被保険者

被保険者とは、「保険を被る者」と書くように、保険の恩恵を受ける人といった意味で、健康保険に加入している“本人”のことを指します。

被保険者は、毎月健康保険料を保険者に納める（健康保険料の半分は、原則事業主が負担）ことで、保険者が実施する保険給付を受けたり、保健事業を利用することができます。

### ■被扶養者

被扶養者とは、被保険者の収入によって生計を立てている人を指します。被扶養者の資格を取得するには、必ず次の3つの基準を満たしている必要があります。

#### 《被扶養者の要件》

- ①被扶養者となる人の収入（手取り額ではなく、年間の総収入）が130万円未満（60歳以上または障害のある方は180万円未満）であること
- ②被保険者の収入の2分の1未満であること
- ③75歳未満であること（75歳以上の方は、後期高齢者医療制度へ加入しなければならぬため）

この他にも、被扶養者となる人が被保険者と同居していることなどが要件となる場合もありますので、詳細は各保険者にお問合せください。

被扶養者は、被保険者が健康保険料を納めることで、医療費の支払いなどの保険給付を受けることができます。

また、健康保険組合などの保険者が実施する健診を受診する、健診費用の補助を受ける、保健指導を受ける、健康教室へ参加するといった、保険者が実施する保健事業を利用することができます。

## 納得できない請求

### 【相談】

72歳の母は、15年ぐらい前からうつ病を患っているのですが、数カ月前から急に状態が悪化しました。いつもかかっている病院で、「しばらく入院して治療をおこないましょう」と勧められ、1カ月半前から入院しています。

少し状態が落ち着いてきたあたりから、せめて読みたい雑誌や食べたいお菓子が買えればと思い、お小遣いを渡したいと病院に伝えました。すると「当院では、入院患者さんのお小遣いはお預かりして管理しています」と言われました。そして“お小遣い管理料”として、1日200円必要と説明されたのです。

私（息子）は、母に月5,000円を渡そうと思っていました。しかし、1日200円だと、月に6,000円の管理料を支払うことになります。実際に預かってもらう費用より、管理料のほうが高いというのが、どうも納得できません。

そもそも、お小遣いを管理するために費用請求することが許されるのでしょうか。もし、それが許されるとしても、1日200円は高すぎませんか。医療に関する費用のことですから、国で決めた基準があるはずですが、国で決めたことに違反しているとしたら、それを正してくれる機関を知りたいのですが。

### 【コメント】山口育子（COML）

精神科病棟では、自分でお金の管理ができない患者さんのお小遣いを預かり、管理料を請求していることは一般的です。ただ、このような費用は、国で定めている診療報酬点数とは異なり、実費ですから基準がないのです。つまり、医療機関で独自に費用設定をすることができるわけです。

ただ、お小遣い管理料といっても、どこまでの管理をしているのか、医療機関や患者さんの状態によって異なることもあるようです。場合によっては買い物代行したり、売店への支払いをおこなったりしているところもあると聞き

ます。なかには、患者さん自身に身寄りがなく、お金の自己管理ができない場合、通帳自体を預かって管理している医療機関もあります。ですので、1日200円がどこまでの管理なのか確認したうえで、お母さん自身がそこまでの管理が必要な状態かどうかを踏まえて、直接医療機関と話し合っはいかがでしょう。

## 介護の交通費を軽減する方法

親の暮らす家が遠いと、帰省するための交通費負担が大きくなります。

都内で暮らすTさんの母親(86)は、大分県の実家でひとり暮らし。2カ月に1度、様子を見るために帰省するそうです。80歳を過ぎた頃から、母親は時々体調を崩して入院することがあります。普段は55日前までに予約を済ませ、片道の航空運賃は約1万3000円。けれども入院時は急いで帰省することになり割引運賃を使えず片道3万円超。先日、同級生の助言で「介護帰省割引」の登録をしました。詳細は各社で異なりますが、Tさんの使う航空会社では、介護保険制度の「要支援・要介護」の親を介護するための帰省に適用されます。Tさんの母親は「要支援2」。席さえ空いていれば当日予約することもでき、予約変更ができるのも忙しい会社員には好都合です。片道約2万4000円なので、割引率は大きくないものの、通常料金に比べるとかなりの節約となります。「もっと早く登録するべきでした」とTさん。

飛行機に介護帰省割引があることを知った方から「鉄道にはないのですか」とよく聞かれます。残念ながら、鉄道会社では実施していないサービスです。新幹線などで帰省する方は、チケットショップで回数券を購入するという声をしばしば聞きます。「どこでも寝る自信がある!」という方の中には、高速バスを利用してコストと時間を削減するという人も。

いずれにしろ、回数が増えると負担は増大。親に余裕がある場合は、介護帰省の旅費は「親負担」とするのも一案です。

2014年8月号

温泉 de 健康に vol.29

温泉と宿のライター 野添ちかこ

第29湯 川治温泉（栃木県・日光市）

野州麻紙のご当地体験

温泉地に出かけたら、その地ならではの歴史や文化と触れあいたい。そんな要望に応じてくれるのが、「星野リゾート 界」ブランドの「ご当地楽」だ。宿それぞれに個性的な体験を用意している。

6月オープンの「星野リゾート 界 川治」ではフロント脇にある「里山工房」で、「野州麻紙づくり」や「石臼挽き体験」ができる。

「麻の生産のうち7割は栃木県なんですよ」。スタッフの説明を聞きながら、麻の和紙を漉き、葉っぱや木の実を使ってオリジナルのはがきを作る。

また、黒豆や赤豆、くるみ豆など8種類の豆から好きなものを選び、石臼で挽いてきなこをつくり、囲炉裏であぶったやわらかマシュマロにつけて食べるのも楽しい。

さらに、1室だけではあるが、泊まってみたいのが「ご当地部屋」。野州麻紙を使ったタペストリーやベッドボードが他にはない居心地のよさを演出する。

川治の湯は昔から「傷は川治、やけどは滝（鬼怒川）」と称せられ、けがによいといわれた温泉。湯に浸かり、里山を存分に満喫したい。

温泉DATA

泉質：単純温泉

特徴：無色透明、滑らかな肌触りの湯。

星野リゾート 界 川治 TEL:050-3786-0099（界予約センター）

2014年8月号

追ってけ！カルチャー vol.41

明知真理子

興味の玉手箱！毎月1冊分“物知り”に

『たくさんのふしぎ』は小学3・4年生向けの月刊誌。1985年から刊行しており、2010年には300号を迎えたロングセラーだ。好評な号は傑作集としてハードカバーの絵本になり、こちらも人気を博している。

1冊1テーマで、自然や動物、人の暮らしやテクノロジーを題材にしている。謎に満ちた生態を追う『クラゲは花』、世界の音楽文化を巡る『おもしろい楽器』、時間という概念を解きほぐす『みんなそれぞれ 心の時間』……子ども向けだが読み応えは十分。好奇心を刺激され、親子で一緒に引き込まれてしまう。

そのふしぎな魅力の理由を探ろうと、編集長の石田栄吾さんに話を聞いた。

テーマを決めるのは、5人の編集者。あくまで“絵本”として、写真やイラストだけでなくストーリーを大切に、作家と丁寧に作りこむ。カメラマンなどの専門家から、企画が持ち込まれることもある。

驚いたのは、1冊を仕上げるのに平均3年ほどかかるということ。「3年かかっても、30年読んでもらえるように」という信念のもと、中にはそこに至らず、涙をのんで打ち切ることも、かなりあるのだとか。

一貫してあるのは「子どもだましではいけない」という姿勢。「僕たちの驚き」（石田さん）がテーマの出発点だ。

最新号のテーマも、石田さんがカメラマンの話に驚いたことがきっかけ。それは『サメ』。なんと4億年も前から今とほとんど同じ姿で、それは「生物として完成していたから」なのだとか！！

今回もわくわくするテーマに、待ちきれないファンは私だけではないはず。大人になっても、世界は驚きに満ちていますね。

『たくさんのふしぎ』

2014年9月号「サメは、ぼくのあこがれ」

福音館書店 667円（税抜き）



1年の半分は海で撮影というカメラマン、吉野雄輔さんの迫力の水中写真が満載！“完璧な生物”とも言われるサメの生態に迫る。